

方針と重点	市の基本施策	学校の教育目標	資質・能力を育てたい	基本施策との関わり	本年度新たな学校の重点	具体的な実践内容または観点 (手立てとしてどうか、または達成度はどうか)	評価 A S D	分析と改善点				
方針・重点・郷土高山に根ざし、未来を切り拓くための資質・能力を育む	①深い学びを実感できる授業への挑戦 ②一領域の協働学習への挑戦 ③地域との協働学習への挑戦 ④生き生きと働く学校づくりの発信	心身ともにたくましく、進んで実践する子 くやさしい子 かんがえる子 やりぬく子	仲間と関わり合い、試行錯誤しながらあきらめずに挑戦する力	明日も来なくなる学校	② すべての児童に居場所がある学校づくり	学校が楽しいと答える児童100%(現状63%) マイサポーター制度や教育相談の充実を図り、学校へ安心してこれると答える児童100%(現状75%)	B	・「学校が楽しい」という問いに対して肯定的な回答をした児童は90%、「学校は安心して過ごせる場所である」と回答した児童は94%であった。「なりたい自分」に向けた個々の成長を認める営みや、心のアンケートや教育相談による個々に寄り添う支援を大切にしてきた成果であると考え。 ・一方で約1割の児童は、「学校が楽しい」と回答していない現状があり、肯定的な9割の児童の中でも「学校が楽しい」と明確に答える児童は、約6割であることから、より一層一人ひとりの児童と向き合い、個別の支援を行っていく必要がある。 ・「自分にはよいところがある」と答えた児童は86%、「仲間に呼びかけたり応えたりしている」と答えた児童は90%であり、年度当初と比較し増加した。ひびきあいカードによる互いの良さを認め合う取組や学級や児童会活動を中心とした互いの活動に協力し合う意識を高める指導の成果であると考え。今後は、より子どもたちに考えさせ、教師主導ではなく、子どもたち自身で新たな活動を生み出す営みを大切にしていける必要がある。 ・日課の見直しを行い、職員研修など職員同士で対話する時間を生み出すことで、同僚性を高めることができた。				
					② 互いのよさを認め合い、一人ひとりを尊重できるよりよい人間関係づくり	児童会を中心とした挨拶活動を展開し、自分から進んで挨拶ができると答える児童75%(現状58%) 互いのよさを認め合う活動を仕組み、「自分には良いところがある」と答える児童90%(現状85%) 仲間に呼びかけたり、呼びかけにこたえたりしていると答える児童75%(現状55%)	B					
					②④ 安全・安心な学校の基盤となる危機管理の徹底と組織的な対応及び業務改善の推進	教育相談やアンケート等を実施し、問題発生時には組織で対応し、早期対応・早期解決に努める 職員が毎日元気に子どもの前に立てるよう、働きがいのある職場づくりを推進する	A					
					② 試行錯誤しながら、目標に向かってあきらめず挑戦する	自己目標の定期的な振り返りを行い、「なりたい自分」に向かって頑張っていると答える児童90%(現状76%) 子どもに投げかけ、主体的に考えさせる学級経営や児童会活動を推進する	A					
					① 学ぶ楽しさや喜び味わえる授業の創造	興味関心ももてる導入の工夫を行い、「授業が楽しい」と答える児童80%(現状62%)	B					
					① わからない児童を置き去りにしない授業の確立	分からないを自然に出し合える学習集団づくりを進め、「授業がわかる」と答える児童80%(現状62%) 3年生以上での算数科での習熟度別少人数指導を実施し、基礎基本の確実な定着を図る授業を推進する	B					
					①④ 主体的・対話的で深い学びに向けた職員の授業力向上	教材研究の日の設定や中学校との合同授業研究会(小中連携)を実施し、職員の授業力向上に努める 校内研修を行い、より効果的なICT活用を推進する	A					
					③④ 郷土愛をはぐくむ総合的な学習の時間	農業生産活動を中核として地域の人材から地域について学ぶ機会を設定する	B					
					学校運営協議会における主な評価内容						・どの授業でも落ち着いて学習に向かう姿勢があり、嬉しい。学ぶ楽しさにも様々な視点があるため、そこを教師が明確にもって授業づくりに努めてほしい。また、ICTが急速に導入され授業での活用が進んでいるが、学校としてどのように工夫・活用するのかを具体的に職員で共有して子どもたちにとってより有意義な授業となるよう努めてほしい。 ・子どもたちの挨拶の意識は徐々に高まってきているが、どの子も明るく地域で挨拶できる子に地域と連携し育てていきたい。	